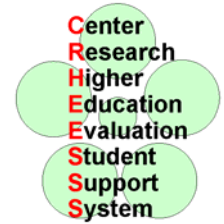


週刊センターニュース No.63



第63号(2005年6月6日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第78回 日時: 6月16日(木) 16:20~17:50

会場: 総合教育棟南棟2階 大会議室

報告者: 堀井 祐介 (大学教育開発・支援センター)

題目: 「日本高等教育学会第8回大会参加報告」

第79回 金沢大学IT推進プログラムの一環として、当センター共同学習会と本学イーラーニング研究会との第11回合同研究会として開催します。

日時: 6月23日(木) 16:20~17:50

会場: 総合メディア基盤センタープレゼンテーション室

報告者: 冬木 正彦 (関西大学)

題目: 「授業支援型 e-Learning システム CEAS (シーズ) とその実践事例」

概要: 学生の学力低下・多様性への対応や外部評価への対応など大学の教育が直面する課題に対して、どのような「eラーニング」であれば解決につながるのか、システム開発と関西大学での教育実践事例を基に講演する。教育を支援するシステムが「簡単」に使えるための仕組みがどのように実現されているか、実際に利用している先生はどのように評価しているか、また学生はどのように受け止めているか、さらにシステムの運用上どのような要望がでているかなどを取り上げる。

授業公開の動向～第11回大学教育研究フォーラムから

全国の大学で大学教育改革の一つとしてFD活動が行われている。FDについてある程度浸透し、現在は、教授法や評価法などを一方向に「啓蒙する」段階から、各大学・各学部での実情に合わせた自発的な「相互研修型」へと移行しつつあるといわれる。板書や声の出し方など一般的な教授法の詳細も必要だが、何よりも重要なのは各々の授業内容であり、この部分について他の専門の近い教員の意見を聞いて授業改善につなげたり、カリキュラムにフィードバックさせることはFDの重要な到達目標の一つであると考えられる。当センターが昨年11月に開催した第1回専門分野別教育開発セミナーの趣旨もそこにある。

このようなFDの流れにおいて注目すべき活動は、授業公開と参観者による検討会であろう。センターニュース58号でも紹介したが、京都大学高等教育研究開発推進センターの高等教育教授システム研究開発部門はすでに10年にもわたり京都大学での授業公開を先導し、様々な取組を実践している。このセンターの主催で開催された第11回大学教育研究フォーラムでもいくつかの大学での授業公開の取組が紹介されたので、ここで紹介しその動向を見てみたい。

京都産業大学では、2003年度に設立された教育エクセレンス支援センターを中心に全学的なFD活動が実施されているが、昨年度、春学期と秋学期に2度にわたり「教員相互による全学一斉公開授業週間」と称して、公開授業と授業参観の取組が行われた。この企画は、教員に対するアンケート調査でFDとして取り組むべき意味のあるプログラムとして46%の専任教員(全教員数122名)

が「公開授業」をあげたことに発している。公開授業週間においては、開講科目数の8割にあたる科目で公開授業が行われ、参観を受けた授業は、春学期、秋学期それぞれ、90科目（参観教員数84名）、23科目（同20名）であった。秋学期が春学期に比べて低調に終わったと報告された。公開授業を実施すること自体が目的ではなく、授業の質など、授業改善に実質的に結びついたかどうかなど、今後の展開に向けた課題が分析されていた。

福島大学においても、昨年度から新しい取組として、全学的なFDワークショップとして「授業公開と検討会」が行われた。4回実施され、それぞれ一回で福島大学の4学類すべてから1科目ずつ公開授業に供された。第1回は倫理学の授業で、全学から40名の参観者（検討会は34名）、また第2回は環境計画の授業で14名の参観者（検討会14名）であった。検討会の内容は、授業のテンポやわかりやすさなど一般的な教授法についての議論に終始している。京都産業大学の事例についても言えることだが、全学的な公開授業では、様々な専門分野の参観者による授業後の検討となり、授業の内容に踏み込んだものにはなりにくい。むしろごく少数の専門に近い参観者による授業後の意見、感想が授業者にとっては重要と思われる。そのような専門分野別の小組織での授業検討のシステムが確立した例は、未だ少ないか、あるいはあまり表には表れていないのかもしれない。このような取組は、ごく日常的なFD活動として位置づけられるものである。

唯一、三尾忠男先生（早稲田大学）と波多野和彦先生（メディア教育開発センター）の発表は、少数の教員による実践的な授業改善の取り組みとして興味深かった。2003年度に実施された授業「情報社会・情報倫理」（受講者30名）について報告された。2名の教員による共同担当で実施された。一方の教員が他方の教員の担当回に授業に出席し、授業中に進行の妨げにならない範囲で、授業内容などについて挙手して質問し、授業に介入するとともに、授業後、授業内容について検討するというものである。この2名の教員は、科目「教育方法研究」も共同担当し、この場合は、授業実施前に授業内容について検討して確定するというものであった。総合科目などでも、複数教員による共同担当はよく行われているが、授業企画や授業の反省などについて教員同士が十分に相互作用することが授業の質、統一性、学際性を高める必要条件と思われる。このような日常的な授業改善が何よりも必要であろうとの印象を持った。（文責 大学教育研究開発部門 西山）

センター教員出張記録

- 2005.04.16 第68回公開研究会「京都大学・UCLAを結んだ遠隔講義による創造性教育：平成16年度の実践から」（主催：京都大学高等教育研究開発推進センター、会場：京都大学）参加（堀井 公費出張）
- 2005.04.22 第1回公開研究会「中国における世界一流大学の育成に関する政策プロセス分析－大学と政府との協力－」（主催：広島大学高等教育研究開発センター、会場：広島大学）参加（堀井 公費出張）
- 2005.04.25 「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」（科研）打合せ参加 大阪大学（堀井 科研費出張）
- 2005.05.21-22 日本高等教育学会第8回大会（九州大学）参加（堀井 公費出張）
- 2005.05.28-29 日本教育法学会第35定期総会（中央大学）発表及び参加（堀井 公費出張）